

## 平成20年度鹿児島大学奄美サテライト教室 前期・後期開設科目と授業概要

鹿児島大学大学院教育学研究科

1. 開講場所 奄美サテライト教室（奄美市）  
平成20年度の開講地区は奄美市のみです。
2. 開講形式 集中講義
3. 授業科目等

### 平成20年度開設科目

開講期	専攻名	コース・専修	番号	授業科目名	単位数	担当教員名
前期	学校教育	教育学コース	1	教育方法学特論	2	河原 尚武
	教科教育	社会科教育専修	2	外国史特論	2	伊藤 正
		数学教育専修	3	幾何学特論	2	安井 孜
		音楽教育専修	4	声楽特論	2	齊藤 祐
		美術教育専修	5	彫刻特論	2	池川 直
		美術教育専修	6	絵画特論	2	桶田 洋明
		保健体育専修	7	学校保健特論演習	2	西種子田 弘芳
後期	学校教育	教育学コース	8	道徳教育特論演習	2	小柳 正司
		教育心理学コース	9	発達心理学特論	2	松田 君彦
		教育心理学コース	10	学校臨床心理学特論	2	関山 徹
		特別支援教育コース	11	障害児神経生理学特論	2	内田 芳夫

## 授業概要

整理番号	1	開講学期	前期	単位数	2
授業科目名	教育方法学特論		担当教員	河原尚武	
授業概要	<p>テーマ「現代教育評価論の研究・実践課題」</p> <p>教育評価研究の最近の動向について理解を深めると共に、教育評価改善に関わる諸施策及び学校における実践課題のいくつかを取り上げて共同研究を行います。</p>				
講義の計画	<p>(1) 教育改革と教育評価論  (2) 教育評価に関わる近年の施策  (3) 教育評価研究の到達点  (4) 「目標に準拠した評価」と「観点別学習状況の評価」  (5) 到達度評価論  (6) 形成的評価論  (7) 新しい評価の方法 ポートフォリオ評価論など  (8) 学校評価と教育実践評価</p>				
講義の方法及び評価	<p>上記の計画に従い、講述と資料の検討を組み合わせる講義を進めます。評価は、講義への出席、資料研究への参加（発表など）、最終レポートなどを総合して行います。</p>				

整理番号	2	開講学期	前期	単位数	2
授業科目名	外国史特論		担当教員	伊藤正	
授業概要	<p>古代ギリシャ史上の諸問題を社会経済史的な観点より考察し、ポリス社会の本質を解明します。本年度は「ギリシア古代の土地事情」というテーマで講義を行います。</p>				
講義の計画	<p>(1) ミュケナイ時代の土地制度  (2) ホメーロスの土地制度 共有地から公有地へ  (3) アルカイク期アテナイの土地問題 ソロンの改革  (4) ペイストラトスの土地政策 公有地賃貸借のはじまり  (5) 古典期アテナイの土地制度 公有地賃貸借の発展  (6) ヘレニズム期の土地問題 公有地私的蚕食  (7) ポリス社会の衰退</p>				
講義の方法及び評価	<p>上記の計画に従い講義を行う。評価は講義への出席状況、最終レポートなどを総合して行います。</p>				

整理番号	3	開講学期	前期	単位数	2
授業科目名	幾何学特論		担当教員	安井 孜	
授業概要	1. 平面図形 2. 閉曲面				
講義の計画	1. 平面図形について(5~6回) (1) 小中学校の教育に現れる図形を高所(主としてユークリッドの原論)から見て解説する。その一方で、原論も現代的立場から論評する。 (2) 平方の定理の小学生向け、中学生向け及び高校生向け証明、四角形の面積等、角錐、円錐の体積等に関する数学的活動を行う。 2. 閉曲線について(9~10回) (1) トポロジー(位相幾何学)的立場から閉曲面(球面、いくつかの穴の開いたドーナツ面など)の構成と分類を行う。分類の結果、コーヒーカップと普通のドーナツは、トポロジーから見れば、同じものであることがわかる。 (2) 閉曲面の構成の時には数学的活動を行い、2つの閉曲面から新しい閉曲面を構成する。				
講義の方法及び評価	講義への出席、数学的活動への参加、最終レポートなどを総合して評価します。				

整理番号	4	開講学期	前期	単位数	2
授業科目名	音楽特論		担当教員	齊藤 祐	
授業概要	フースラーの著書「うたうこと」を教材に歌唱発声の分析を行います。とりわけ「歌唱発声の際の肉体的状況と条件」、「芸術歌唱のための発声法」をテーマに、実技演習を交えて講義を行います。				
講義の計画	(1) 基礎原理「歌唱発声の際の肉体的状況と条件」 (2) 声の分析とその聞き方(よい声とは?) (3) 調和的相互作用による発声器官の統一 (4) 発声器官の解剖と生理(咽頭、咽頭懸垂機構、脊柱と横隔膜等) (5) 声区「芸術歌唱のための発声法」 (6) アンザッツと音色 (7) 声種(声種の決定、変声期の問題) (8) 表情筋と声帯 (9) 訓練の原則と方法				
講義の方法及び評価	上記の計画に従い、講述とビデオ、録音、資料等の検討、実技演習(発声、訓練方法)を組み合わせで行います。評価は、講義への出席、実技演習の取り組み、最終レポートなどを総合して行います。				

整理番号	5	開講学期	前期	単位数	2
授業科目名	彫刻特論		担当教員	池川直	
授業概要	<p>テーマ「彫刻技法と表現」</p> <p>彫刻の歴史と表現技法について、彫刻制作をとおして理解し、各々の彫刻表現を研究します。</p>				
講義の計画	<ul style="list-style-type: none"> <li>(1) 東西彫刻の歴史とその技法</li> <li>(2) 東西彫刻の歴史とその技法</li> <li>(3) 塑像による表現</li> <li>(4) 塑像による表現</li> <li>(5) 塑像による表現</li> <li>(6) 彫像、木彫りによる表現</li> <li>(7) 彫像、木彫りによる表現</li> <li>(8) 彫像、木彫りによる表現</li> </ul>				
講義の方法及び評価	<p>上記の計画に従い、講述と資料の検討を組み合わせ、作品制作のなかで検証して講義を進めます。評価は、塑像による作品と木彫による作品2点による評価を行います。</p>				

整理番号	6	開講学期	前期	単位数	2
授業科目名	絵画特論		担当教員	桶田洋明	
授業概要	<p>近代から現代に至る絵画についての研究を深め、それぞれの時代の表現形式を中心に、テーマや様式を考察することにより絵画の今日的あり方を研究します。</p>				
講義の計画	<ul style="list-style-type: none"> <li>(1) 造形教育の分野での絵画教育の位置づけ</li> <li>(2) 絵画の造形要素</li> <li>(3) 絵画の歴史について</li> <li>(4) 技法と感性のとの関わり</li> <li>(5) 現代美術における絵画</li> <li>(6) 絵画の分析</li> <li>(7) まとめ</li> </ul>				
講義の方法及び評価	<p>上記の計画に従い、講述と資料の検討、簡単な実技制作を組み合わせ講義を進めます。評価は、講義への出席、毎時のレポート又は実技作品、最終レポートなどを総合して行います。</p>				

整理番号	7	開講学期	前期	単位数	2
授業科目名	学校保健特論演習	担当教員	西種子田 弘芳		
授業概要	テーマ「性教育の課題と内容及び進め方」 「性」が社会的問題となってきた社会的背景の中での学校における「性教育」はどうあるべきかを取り上げる。				
講義の計画	(1) 性が解放されたという風潮の背景 (2) 人間の性の特徴 (3) 学校における性教育の動向 (4) 学校における性教育の内容の検討 1. 特に思春期の身体的発達の違い 2. 男女の心理的発達の違い 3. 性生理と性心理の理解 4. 自立と共立、性役割、男女交際のエチケット 等 (5) 教職員の研修と共通理解、教育体制の在り方				
講義の方法及び評価	上記の計画に従い、資料に基づいた講義を行い、現場実践の課題を出し合い、討論形式で検討する。評価は、講義への出席、レポートなどを総合して行います。				

整理番号	8	開講学期	後期	単位数	2
授業科目名	道徳教育特論演習	担当教員	小柳 正司		
授業概要	テーマ「キャラクター・エデュケーション：現代アメリカにおける道徳教育展開」 アメリカでは1990年代になって、キャラクター・エデュケーション(character education)と呼ばれる道徳教育の実践が全国的な規模で展開されている。特にブッシュ政権が発足した2001年に“ No Child Left Behind Act of 20 ”という法律が連邦会議で共和・民主党の賛成のもとに成立して以降、キャラクター・エデュケーションは連邦教育省の強力な支援のもとに、多くの州教育当局と地域学区とが連携して取り組むようになってきている。 キャラクター・エデュケーションは、特定の哲学や教育理論に基づくものというよりも、どちらかといえば草の根的な道徳教育復興運動といった性格を持っており、秩序ある健全な社会の一員として誰もが身につけるべき常識的なマナーや態度、規律といったものを重視している。そして、学校を中心に家庭や地域社会とも連携して、子どもたちの日常生活のあらゆる場面を通じて、大人たちが一体となって子どもたちに対する道徳的なケアに取り組む態勢を整えようとしている。 この授業では、キャラクター・エデュケーションの実践例なども参考にしながら、現代アメリカの道徳教育事情の一端を知るとともに、我が国における道徳教育の取り組みとの比較を通して、キャラクター・エデュケーションの特色や主張を考察する。				
講義の計画	(1) アメリカの公立学校をとりまく状況 (2) キャラクター・エデュケーション登場の背景 (3) キャラクター・エデュケーションの基本的特徴 (4) キャラクター・エデュケーションの実践例 (5) キャラクター・エデュケーションの教材とカリキュラム				
講義の方法及び評価	講述と資料の検討を組み合わせ進めます。また、授業の途中で簡単なワークショップや短い模擬授業を行ったり、小論文作成を行います。評価は、講義への出席、授業への貢献度及び小論文を総合して行います。				

整理番号	9	開講学期	後期	単位数	2
授業科目名	発達心理学特論	担当教員	松田君彦		
授業概要	<p>ヒトは動物の一員として自然的環境に適応してきたが、一方では、人の特性として自らが創り出してきた社会・文化的環境にも適応して行かねばならない。この講義では、こころの進化を人類の歴史、更には動物の進化の流れの中で捉えてみる。</p> <p>この授業をとおして、現代人が享受している文明の恩恵や現代人の心を科学的視点に基づいて、批判的に考察できる知識や態度を身につけることを目指す。</p>				
講義の計画	<p>(1) こころの進化と脳の進化</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・進化心理学から見たこころの発生</li> <li>・人間行動の進化的研究</li> </ul> <p>(2) 脳の構造と働き</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・進化心理学から見たこころの発生</li> <li>・人間行動の進化的研究</li> </ul> <p>(3) ヒトの発達の生物学的基礎</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・ポルトマンの分類</li> <li>・発達や学習の生得的制約</li> </ul> <p>(4) 社会的認知の発達</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・「心の理論」の研究</li> </ul> <p>(5) 記憶の進化と発達</p>				
講義の方法及び評価	<p>講述と資料の検討を組み合わせる講義を進めます。評価は、講義への出席、レポートなどを総合して行います。</p>				

整理番号	10	開講学期	後期	単位数	2
授業科目名	学校臨床心理学特論	担当教員	関山徹		
授業概要	<p>学校教育現場とその周辺における、(1) 児童期・思春期の心理特性を考慮した児童生徒理解、(2) 身体表現や象徴表現を含む多層的なコミュニケーション、(3) 学内外(専門機関・家庭・地域)との連携を視野に入れた支援方略の探求、に関する能力を高めることを目標とする。</p> <p>不登校や自傷行為など、学校教育現場で生じている諸問題に関する理解と関与を深めるために、児童生徒理解、コミュニケーション、学内外における連携の側面から講義していく。また、とりわけ近年増加している病理性の高い問題行動について取り上げていく。</p>				
講義の計画	<p>(1) 学校臨床心理学の特徴と方法</p> <p>(2) 児童生徒の心理的ストレスと病理</p> <p>(3) 児童期(前半)の心理と問題行動</p> <p>(4) 児童期(後半)の心理と問題行動</p> <p>(5) 思春期の心理と問題行動</p> <p>(6) 不登校児童生徒への支援</p> <p>(7) 暴力的な行動のある児童生徒への支援</p> <p>(8) 自傷行為のある児童生徒への支援</p> <p>(9) 保護者の支援と校内連携</p> <p>(10) 地域の専門機関との連携</p> <p>(11) 児童生徒とのコミュニケーション</p> <p>(12) 児童生徒における身体表現</p> <p>(13) 児童生徒における象徴表現</p> <p>(14) 児童生徒の創造性</p> <p>(15) まとめ</p>				
講義の方法及び評価	<p>上記の計画に従って講述すると共に、随所で受講者による発表やディスカッションを取り入れていく。評価に関しては、出席を30%、受講態度(予習傾向や発表等を含む)を40%、期末レポートを30%として、総合的に評価します。</p>				

整理番号	1 1	開講学期	後 期	単位数	2
授業科目名	障害児神経生理学特論	担当教員	内 田 芳 夫		
授業概要	人間の脳と心理過程について理解を深める。特に、脳研究と人間の行動との関連や発達障害児を含めた小児の神経心理学的研究の臨床に対する意義について考察する。				
講義の計画	<ul style="list-style-type: none"> <li>( 1 ) 研究と人間の行動</li> <li>( 2 ) 神経心理学とその臨床に対する意義</li> <li>( 3 ) 人間の高次心理機能とその局在の問題</li> <li>( 4 ) 人間の脳と意識活動</li> <li>( 5 ) 小児の神経心理学的研究の意義</li> <li>( 6 ) 知的障害児の調節機能の発達</li> <li>( 7 ) 前頭葉損傷時の障害</li> <li>( 8 ) 頭頂葉損傷時の障害</li> <li>( 9 ) 側頭葉損傷時の障害</li> <li>( 10 ) 後頭葉損傷時の障害</li> <li>( 11 ) 知的障害児の言語機能の発達</li> <li>( 12 ) 発達の叙述構造の神経心理学的分析 (知的障害児を中心として)</li> <li>( 13 ) 失語症における障害の問題</li> <li>( 14 ) 失語症者の言語行為の分析</li> <li>( 15 ) まとめと試験</li> </ul>				
講義の方法及び評価	講述と資料の検討を組み合わせる講義を進めます。評価は、講義への出席、レポートなどを総合して行います。				